

1・28 三里塚東峰公判
1時/千葉地裁
1・2911・19高橋同志
第1回控訴審
1時半/東京高裁

発行所/新 民主社
編集人/伴 理人 川崎 文
東京都新宿区百人町1-11-166
31号電話 03(320) 6263
東京 1-16285番(共) 共産共闘部
「旗」編集委員会/関西支
社 電話 06(312) 6263

旗

12月15日
毎月1日、15日発行
第101号
定価 半年900円(千代付)
1年1800円
(送料 半年900円 年1800円)

若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

弘済会闘争報告

職場内における沈黙とタブーに着目せよ

反帝戦線弘済会闘争班

「沈黙」は、職場内における最も危険な状態である。それは、労働者が自分の権利や意見を主張できず、ただ黙って従う状態を指す。この沈黙は、資本家にとって都合の良い状態であり、労働者の利益を侵害する行為を容れざるを得ない。我々反帝戦線弘済会闘争班は、この沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。タブーとは、職場内でタブーとされていること、つまり、労働者が口にできないこと、つまり、労働者の利益を侵害する行為のことである。我々はこのタブーを打破し、労働者の利益を守っていく。そのためには、職場内における沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。

前提的諸問題

支援・当該関係の浮遊

前提的諸問題とは、闘争の前提となるべき諸問題を指す。それは、労働者が闘争を行うに当たって、どのような支援を得られるか、どのような関係が浮遊するか、といった問題である。我々反帝戦線弘済会闘争班は、これらの前提的諸問題を明確にし、労働者の利益を守っていく。そのためには、職場内における沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。

現在の諸問題

組合運動から逸脱するもの

現在の諸問題とは、現在の労働運動における諸問題を指す。それは、組合運動から逸脱するもの、つまり、労働者が組合運動以外の手段で闘争を行うこと、といった問題である。我々反帝戦線弘済会闘争班は、これらの現在の諸問題を明確にし、労働者の利益を守っていく。そのためには、職場内における沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。

意志の選択する日常の現段階

慶大学費闘争からの報告
反帝戦線慶大生

錯乱と拡散

の中

錯乱と拡散とは、労働運動における重要な概念である。それは、労働者が自分の意志を選択し、日常の現段階において、どのような行動を取るべきか、といった問題である。我々反帝戦線弘済会闘争班は、これらの錯乱と拡散を明確にし、労働者の利益を守っていく。そのためには、職場内における沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。

集団表現し編成

への踏み込み

集団表現し編成への踏み込みとは、労働者が集団として行動し、自分の意志を選択し、日常の現段階において、どのような行動を取るべきか、といった問題である。我々反帝戦線弘済会闘争班は、これらの集団表現し編成への踏み込みを明確にし、労働者の利益を守っていく。そのためには、職場内における沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。

昇天した諸団体

との拮抗

昇天した諸団体との拮抗とは、労働運動における重要な概念である。それは、労働者が自分の意志を選択し、日常の現段階において、どのような行動を取るべきか、といった問題である。我々反帝戦線弘済会闘争班は、これらの昇天した諸団体との拮抗を明確にし、労働者の利益を守っていく。そのためには、職場内における沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。

結び

結びとは、労働運動における重要な概念である。それは、労働者が自分の意志を選択し、日常の現段階において、どのような行動を取るべきか、といった問題である。我々反帝戦線弘済会闘争班は、これらの結びを明確にし、労働者の利益を守っていく。そのためには、職場内における沈黙を打破し、労働者の声を上げようとする。そのためには、職場内におけるタブーに着目し、それらを打破していく必要がある。

若疑シク覚候ハバ
我等ノ所業終候処ヲ
爾等眼ヲ開テ看ヨ

私たちの現在課題と 撤収基準とは何か

11・19沖縄控訴審初公判を前にして

11・19沖縄闘争被告団

はじめに

裸形化した 関係域をめぐって

自覚なき転向が 意味するもの



11月19日、東京地裁で11・19沖縄闘争被告団の初公判が行われた。被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。

被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。

被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。

被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。被告は、この闘争を通じて、沖縄の現状と我々の課題を明らかにし、撤収基準を問うた。これは、戦後最大の政治的挑戦である。

叛旗・特別号 一同盟内論争の結果と展望

B5版・100頁・頒価700円 残部僅少

1 同盟内論争の公開に際して
2 共産主義者同盟中央委員会
(叛旗特別号掲載)

II 序
(一) BIRD中央委員(11・19)

III 同盟の道か?

IV 同盟の道か?

政治 組織 判断 闘争 獲得にむか

叛旗
第10号
75・JUN

日本国家と連帯の共同幻想
核形への思想水路

坂田 正隆
神野 隆
三上 治
立花 謙